



真空管アンプの魅力と底力
注目製品ファイル・真空管アンプ・使いこなし入門

アナログソース録音にも便利な 先進のDACプリアンプ USBを含めた 多彩な入出力が楽しい

デジタル、PC、アナログの垣根を
超えて楽しめる多機能機
アナログソースのデジタル化にも威力を発揮する

photo: K. Kazama



Esprit ¥71,400
DAコンバーター/
デジタルプリアンプ
ADL

spec

- 形式: USB、アナログデジタル入出力対応インターフェイス
- 入力端子: アナログRCA×2、同軸デジタル、光デジタル98dB
- 出力端子: アナログRCA、光デジタル、ヘッドホン
- USB: B端子
- USB入力: 再生96kHz/16、24bit、録音96kHz/16、24bit(MAX)
- 同軸/光デジタル入力: 再生24bit/192kHz(MAX)
- 周波数特性: 20Hz~20kHz(±0.5dB)
- 電源: ACアダプター使用 ●サイズ: W150×H57×D141mm
- 重量: 0.97kg ●問い合わせ先: フルテックTel.03-5437-0281

ポインツの2はこれまでなかった多彩なデジタル入力だが、セレクターをカチカチ回してUSBのほかにもS/PDIFの同軸、光入力もセレクターが可能なのだ。一方出力系はアナログRCAのほかはデジタルの光とUSB出力がOKで、PCへのアナログアーカイブはこのUSB出力で行なうことができる。つまりA/DにもD/Aにも使え、限りなくアナログとデジタルの垣根を低くしてくれるのが「エスプリ」の魅力だ。クオリティ面が後まわしになったが、これも力が入る。DACは192k/24ビットのWolfsonの

ADL(アルファ・デザイン・ラボ)はフルテックがプロデュースした、ハイCPな製品を手がけるオーディオブランドだ。USB・DACの1号機であるGT・40はフォノイコライザーを搭載して、レコードのPC再生のできるオーディオインターフェイスとして高い人気だが、さらに新しい機能と性能をビルトインしたトップモデル、「エスプリ」が発売された。

GT・40をベースとしつつ、どのような進化をとげたのだろうか。アルミのパネルイメージ(フロント、リアとも)や削り出しのポリウムつまみなどはGT・40の感触だが、一見してわかるのがその左側に設けられたセレクターノブと計測器を思わせるトグルスイッチだ。いいかえるとこの部分こそが「エスプリ」のアドバンテージであり、最大の注目点である。

ADLも搭載され多彩な使いこなしが魅力

背面の端子群からおわりのように、「エスプリ」はアナログ/デジタルを含め、多彩な入出力機能をもつ優秀なDACプリ&ヘッドフォンアンプという位置づけの商品だ。ポインツの第一は従来に続いて、レコードやカセット、FMチューナーなどアナログソースへの対応だ。フォノイコが省かれたのは私的には残念だが、ライン入力2系統をしっかりと装備。しかも録音レベルをトグルスイッチによって0/6/12dBの3ステップに設定できる。

4
注目製品
noteworthy product FILE
ファイル
文: 林 正儀
text: Masanori Hayashi
file.241



切換えが可能だ。一方A/Dコンバーターもダイナミックレンジ114dBをうたうシラス・ロジックの1

2kまたは96kに。こうした基幹チップのほかにも、オーディオパーツや新規のボード設計など、かなりのこだわりだ。ヘッドフォンアンプは今回16〜60Ωと広範囲なインピーダンス値をカバーしているのも見逃せない。

WM8716 (従来はTEENORの96/24)。USB入力は96/24対応だが、S/PDIFについては、背面スイッチにより再生時のサンプリング周波数を19

92/24マルチビットタイプCS5361をおこり、録音クオリティのアップを図っている。DIRRには低ジッター動作のクロックリカバリー対応チップを搭載。非同期のアシンクロナスモードももちろん搭載だ。



Espritのフロントパネル



Espritのリアパネル。プリアンプとしても使える構成だ

ヘッドフォンアンプとしても十分な内容を持つ好製品だ

ウインドウズPCではドライバのダウンロードが必要だが、高級機なりの儀式と受け取ろう。まずはUSB入力を聴いた。同じ96/24の音源でも、一段となめらかかつ上質でレンジがのびる。ボトム方向も意外なほど豊かなプレゼンスがあり、管弦楽の裾野や密度感がぐんと拡大されつつ、アコースティックギターや室内楽、女性ボーカルなどのみずみずしさが際立つ印象だ。

ともかくDAC性能が優秀で、クランシクもジャズもジャンルを問わず情報量がびっしりと緻密。体感SN比も高い。各楽器の位置関係もハイフォーカスで、3次元的にピンがあらうという表現がびつたりだ。にじみがなく輪郭がしまつて遠近、高さをもなうダイナミックなステレオイメージ。高級モデルらしい音場の安定感が好ましい。CDリッピングは「ハンター」のむっちりとした厚みと、びりつとしたところのある表現も私好みだ。アナログソースは手持ちのフォノイコライザーを使い、「ブルージーム

AYA」ゲルハルト・オピッツの芸術(p)はか新旧盤おりませて試験。やはり有用なのは3段階のレコーディングレベル設定だ。クリップのインジケーターも付き、よりシビアな調整ができた。アナログでは一層腰の座った音調が再現されるよう、これはコンパクトな筐体とは思えないリッチな低重心さである。

AYAのどろりとした濃厚ボーカーや、深い余韻のピアノ、雰囲気感バリバリの伴奏トロンボーンなど、録音鮮度の高さをダイレクトに実感する。クラシックピアノは粒粒だち、余韻感など絶妙と言えるサウンド表現だ。ボディサイズが等身大で再現され、アタックと減衰のコントラストもみごとなもの。古いロックやポップスなども、付加ノイズがなくナチュラルないい感じでHDDに収録できた。他社の同価格帯モデルと比べても、このアナログ入力は魅力的だ。ヘッドフォンの音もチェックしたが、TI社とJRCのアンプチップの恩恵なのか、秀逸なSN比で、大型ドライバをバランス良く鳴らすのびやかで爽快、暖かみのある女性ボーカルが好印象だ。ヘッドフォンアンプとしても存分に使いこなせる内容であり、ずばりハイC/Pな製品だ。